

# 2005年6月期中間決算説明会

2005年2月15日

株式会社インターネット総合研究所

---

(注) 当資料は、当社の2005年6月期中間決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2005年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々々の状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

---

# 目次

1. 中間期決算の概要
2. グループ各社の概況
3. IRIグループ全体戦略

# 1. 中間期決算の概要

# 1-1. 2005年6月期中間決算サマリー

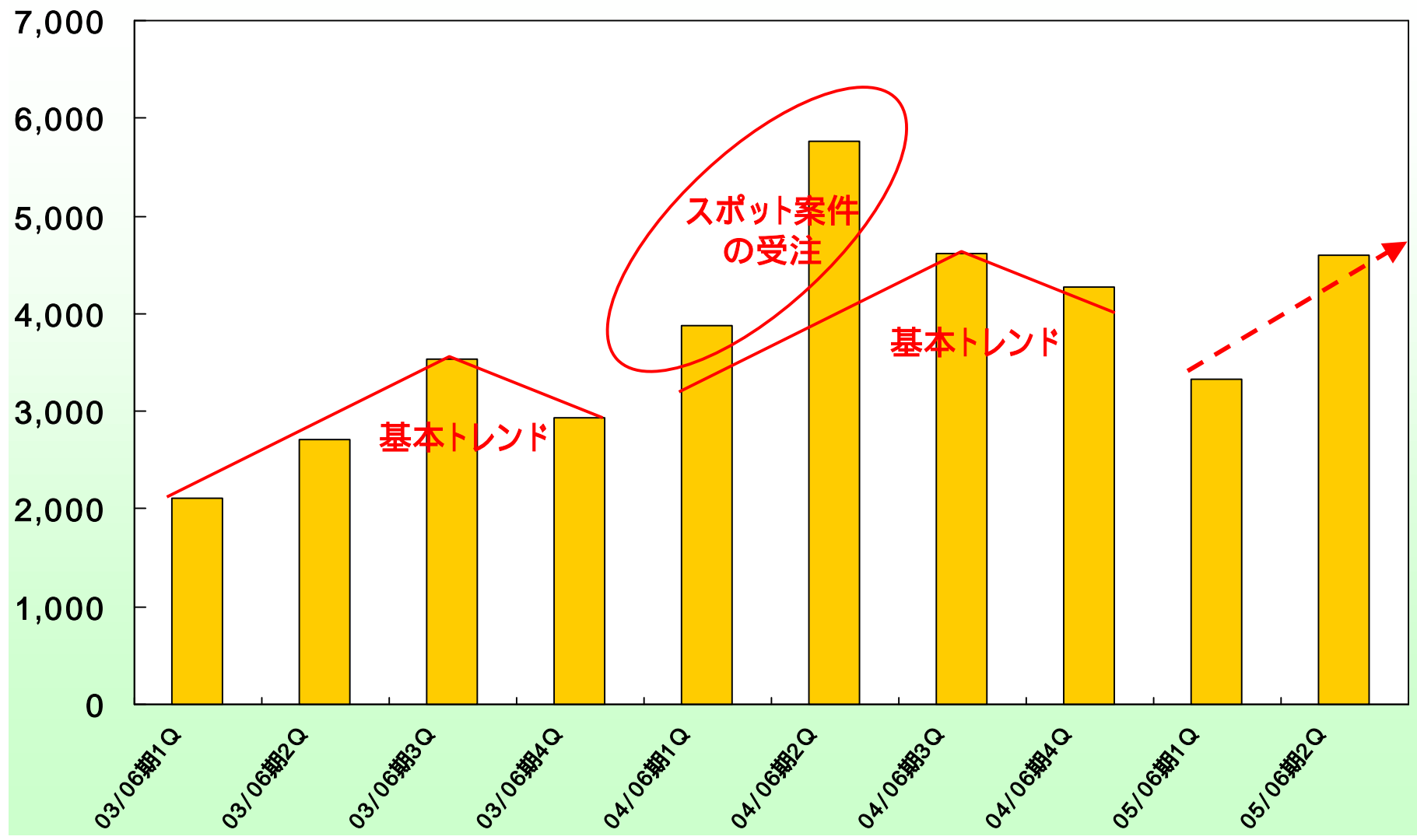
(単位:百万円)

		2005年6月期 中間期実績	2004年6月期 中間期実績	前年同期差	2005年6月期 通期予想	達成率
連結	売上高	7,933	9,632	-1,699	21,000	37.8%
	営業利益	114	257	+371	800	14.3%
	経常利益	141	398	+539	700	20.1%
	当期利益	62	176	+238	400	15.5%

		2005年6月期 中間期実績	2004年6月期 中間期実績	前年同期差	2005年6月期 通期予想	達成率
単体	売上高	115	4,446	-4,331	780	14.7%
	営業利益	299	159	-140	390	---
	経常利益	251	289	+38	390	---
	当期利益	123	334	+211	390	---

# 1-2. 四半期業績推移 (売上高)

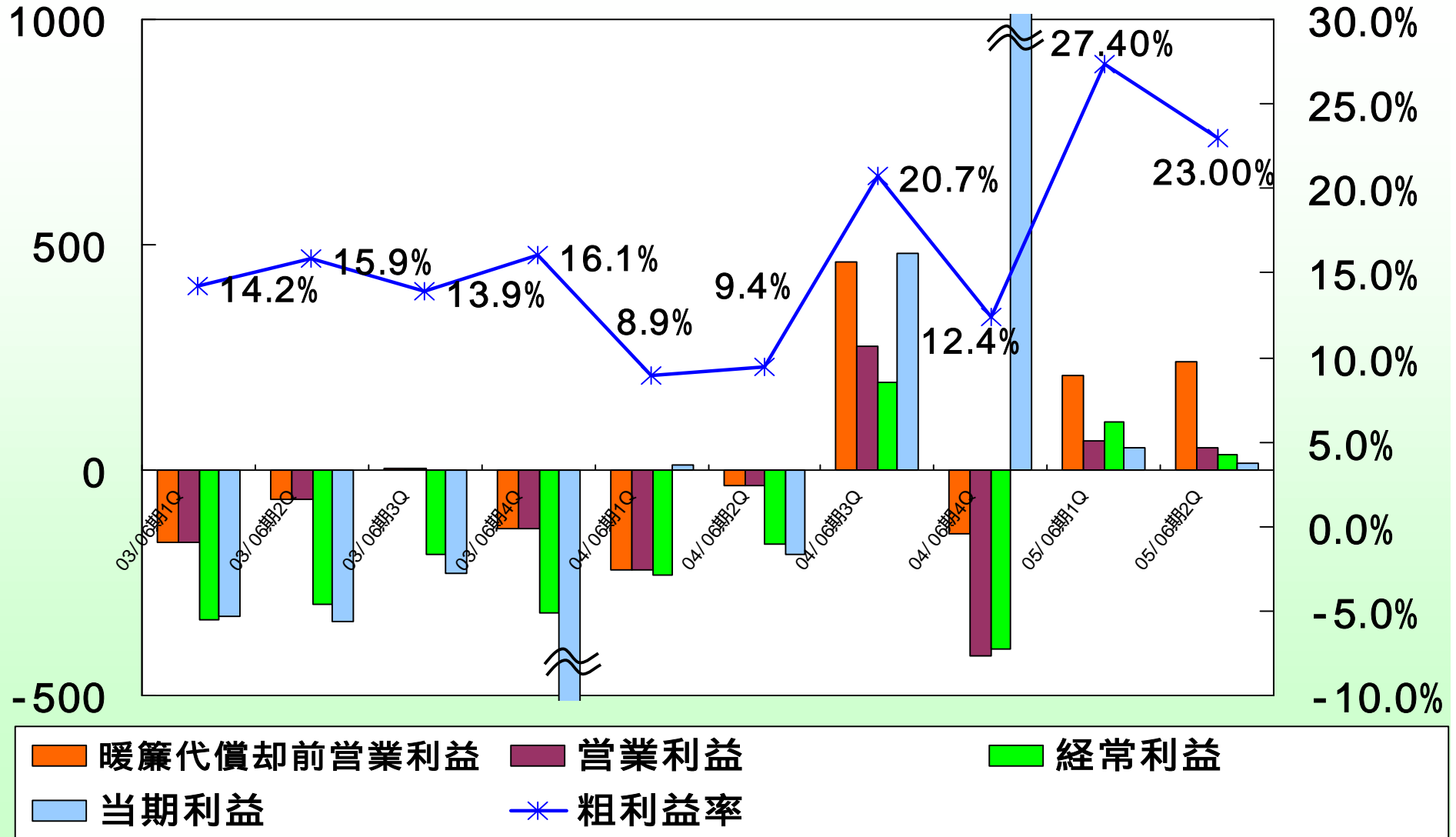
(単位:百万円)



# 1-3. 四半期業績推移 (利益)

(単位:百万円)

四半期ベースでの営業・経常・当期利益は黒字継続



# 1-4. 連結PL概要

(単位: 百万円)

	2004/6月期					2005/6月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	前年同期比
<b>売上高</b>	<b>3,871</b>	<b>5,762</b>	<b>4,615</b>	<b>4,278</b>	<b>18,525</b>	<b>3,335</b>	<b>4,599</b>	<b>80%</b>
[IPネットワーク事業]	2,253	4,015	2,711	2,817	11,796	2,079	3,457	86%
[内訳] IRI単体	1,360	2,992	1,549	1,236	7,137	9	43	1%
BBTower	617	691	753	946	3,007	988	1,201	174%
BBX	149	204	208	410	971	218	0	0%
IRI-Com	115	118	100	441	775	777	1,950	1653%
IRI-CT	103	111	125	141	481	134	170	153%
シアス・アール	---	13	---	---	13	---	---	---
PoD	---	---	---	---	---	---	147	---
[IPプラットフォーム事業]	1,615	1,744	1,901	1,466	6,726	1,236	1,114	64%
[内訳] IRI単体	38	57	105	49	248	63	0	0%
IRIユビテック	1,578	1,688	1,819	1,414	6,499	1,236	998	59%
ファイバーテック	---	---	---	---	---	---	140	---
[その他事業]	2	2	2	3	10	2	27	1350%
[内訳] IRI-USA、IRI-FT等	2	2	2	3	10	2	27	1350%
<b>売上総利益</b>	<b>347</b>	<b>544</b>	<b>958</b>	<b>534</b>	<b>2,382</b>	<b>914</b>	<b>1,058</b>	<b>194%</b>
販管費	568	581	685	947	2,781	847	1,010	174%
うち、暖簾代償却費	0	0	191	271	461	145	191	---
<b>営業利益</b>	<b>221</b>	<b>37</b>	<b>273</b>	<b>413</b>	<b>398</b>	<b>67</b>	<b>48</b>	<b>-130%</b>
暖簾代償却前営業利益	221	37	464	143	63	211	239	---
<b>経常利益</b>	<b>233</b>	<b>166</b>	<b>197</b>	<b>399</b>	<b>600</b>	<b>107</b>	<b>35</b>	<b>-21%</b>
<b>当期純利益</b>	<b>10</b>	<b>187</b>	<b>483</b>	<b>1,507</b>	<b>1,812</b>	<b>48</b>	<b>14</b>	<b>-7%</b>

・**売上高/売上総利益**: 売上高は前年同期を下回るが、前年同期は大口のスポット案件(主に利益率の低い機器販売)による一時的な増加要因があった為で、売上総利益率は大きく改善。売上総利益の金額は前年対比でほぼ倍増となり、過去最高水準を計上した。

・**営業/経常/当期利益**: 人員増やM&Aによる暖簾代償却費の増加により販管費が前年対比で74%増加したが、第1四半期に続き営業利益、経常利益、当期利益を確保した。

# 1-5. 連結BS概要

(単位:百万円)	2004/6月期				2005/6月期		
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	中間期	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>6,933</b>	<b>12,229</b>	<b>10,820</b>	<b>10,375</b>	<b>8,699</b>	<b>12,908</b>	<b>24.4%</b>
うち 現金及び預金	2,256	5,004	4,047	3,988	3,939	5,637	41.3%
うち 受取手形及び売掛金	3,513	6,227	5,654	5,555	4,010	4,083	-26.5%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	526	355	494	329	463	2,832	760.8%
<b>固定資産</b>	<b>4,287</b>	<b>4,342</b>	<b>5,981</b>	<b>6,623</b>	<b>7,056</b>	<b>8,739</b>	<b>31.9%</b>
うち 有形固定資産	2,250	2,243	2,295	2,311	2,404	2,572	11.3%
うち 無形固定資産	50	194	2,000	1,787	1,663	2,107	17.9%
うち 投資その他資産	1,986	1,904	1,685	2,524	2,988	4,059	60.8%
<b>資産合計</b>	<b>11,220</b>	<b>16,572</b>	<b>16,802</b>	<b>16,999</b>	<b>15,756</b>	<b>21,664</b>	<b>27.4%</b>
<b>流動負債</b>	<b>4,773</b>	<b>7,785</b>	<b>6,943</b>	<b>5,541</b>	<b>4,141</b>	<b>3,833</b>	<b>-30.8%</b>
うち 支払手形及び買掛金	2,801	5,676	5,027	4,226	2,803	2,333	-44.8%
うち 短期借入金	990	1,040	600	100	100	243	143.0%
<b>固定負債</b>	<b>749</b>	<b>633</b>	<b>565</b>	<b>607</b>	<b>523</b>	<b>4,993</b>	<b>722.6%</b>
うち 新株予約権付社債	---	---	---	---	---	4,500	---
<b>負債合計</b>	<b>5,523</b>	<b>8,419</b>	<b>7,509</b>	<b>6,148</b>	<b>4,664</b>	<b>8,826</b>	<b>43.6%</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>1,104</b>	<b>924</b>	<b>993</b>	<b>1,003</b>	<b>1,178</b>	<b>2,024</b>	<b>101.8%</b>
資本金	2,226	3,640	3,843	3,855	3,866	3,900	1.2%
資本準備金	4,536	5,950	6,245	6,255	6,266	7,058	12.8%
利益剰余金	2,101	2,289	1,803	279	243	162	---
<b>資本合計</b>	<b>4,592</b>	<b>7,229</b>	<b>8,298</b>	<b>9,847</b>	<b>9,913</b>	<b>10,813</b>	<b>9.8%</b>

- ・流動資産の増加: 社債の発行に伴う現金預金の増加・ファイナンス事業に係る前払費用の発生
- ・固定資産の増加: ファイバーテック買収に伴う連結調整勘定の増加・ファイナンス事業に係る預託金の発生
- ・流動負債の減少: 買掛金の減少(見合いの売掛金も減少)
- ・固定負債の増加: 新株予約権付社債の発行に伴う増加



## 1-6. 連結CF概要

(単位:百万円)	2004/6月期		2005/6月期	
	中間期末	決算期末	中間期末	前年同期比
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	262	514	1,902	626.0%
投資活動によるキャッシュ・フロー	492	680	826	67.9%
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,508	2,949	4,205	19.9%
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	5	3	-50.0%
現金及び現金同等物の増加額	2,748	1,748	1,472	-46.4%
現金及び現金同等物の期首残高	2,251	2,251	3,999	77.7%
連結適用に伴う現金預金増加	-	-	111	-
現金及び現金同等物の期末残高	4,999	3,999	5,584	11.7%

- ・営業CFの増加: ファイナンス事業に係る前払費用(約23億円)を除けば営業CFは約4億4,000万円の黒字
- ・投資CFの増加: ファイナンス事業に係る預託金の支出・投資有価証券の取得
- ・財務CFの増加: 新株予約権付社債の発行

# 1-7. グループ会社別業績内訳

単位:百万円

	売上高				営業利益				経常利益				当期利益			
	2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期		2004年6月期		2005年6月期	
	中間	通期	中間	通期計画	中間	通期	中間	通期計画	中間	通期	中間	通期計画	中間	通期	中間	通期計画
IRI単体	4,446	7,384	116	780	-159	-478	-299	-390	-289	-636	-251	-390	-334	39	-124	-390
BBTower	1,307	3,006	2,189	4,400	68	294	322	383	46	251	311	338	87	303	345	328
ユビテック	3,266	6,499	2,234	6,500	169	429	210	500	168	426	220	500	90	299	120	300
BBX( 1)	352	971			-253	-458			-248	-446			-256	-455		
IRI-Com( 1)	233	774	2,945	8,200	-48	-151	-28	500	-50	-154	-8	500	-28	-185	-20	450
IRI-CT	214	480	304	660	4	12	20	50	3	11	19	49	3	10	19	49
その他( 2)	17	22	292	460	-19	-22	-29	28	-23	-23	-18	27	-23	-23	-18	27
合計【単純合算】	9,838	19,136	8,080	21,000	-242	-374	205	1,071	-392	-571	272	1,024	-461	-12	322	764
連結修正仕訳	-206	-616	-147		-15	-23	-91	-271	-6	-30	-131	-324	285	1,824	-260	-364
連結合計	9,632	18,525	7,933	21,000	-257	-398	114	800	-398	-600	141	700	-176	1,812	62	400

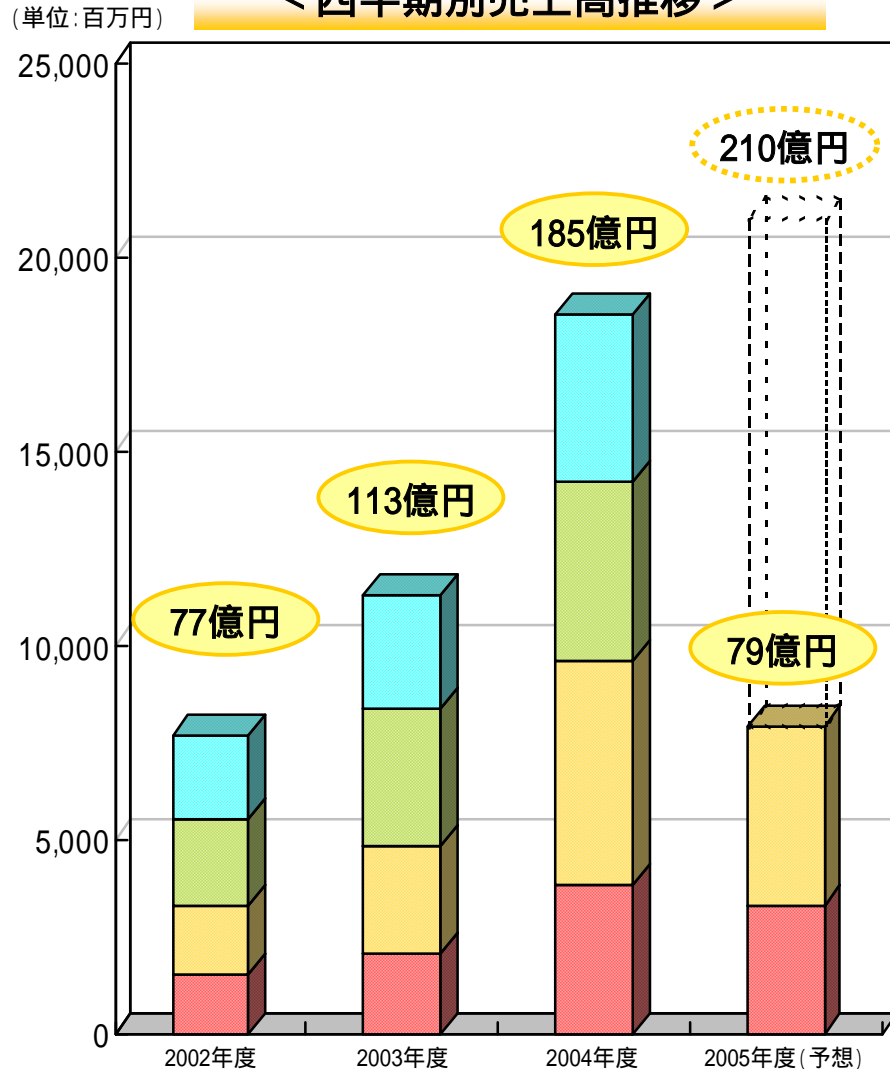
( 1)10月1日よりBBXとIRI-Comは合併

( 2)その他は、IRI-USA、IRI-FT、PoD、ファイバーテック

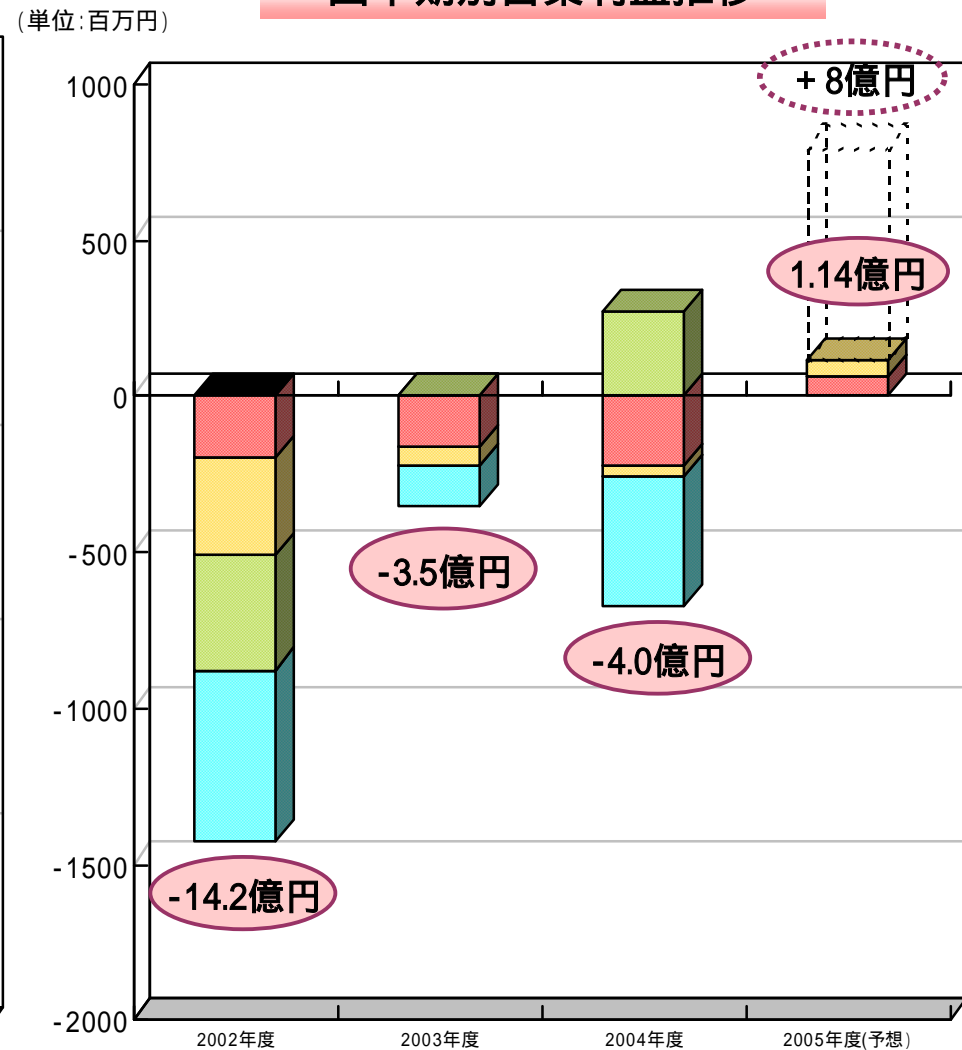
# 1-8. 通期業績推移の四半期内訳

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

< 四半期別売上高推移 >



< 四半期別営業利益推移 >

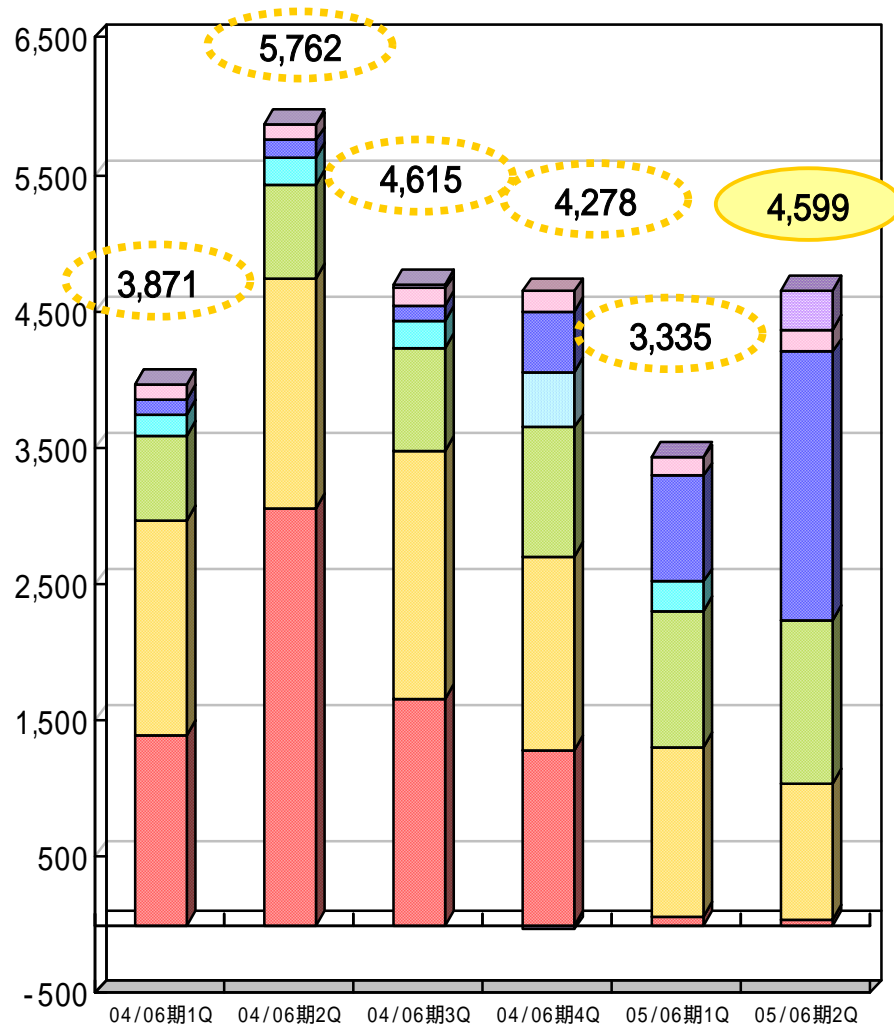


# 1-9. グループ会社別四半期業績推移 (売上高・営業利益)

■ IRI本体 
 ■ IRIユビテック 
 ■ BBTower 
 ■ BBX 
 ■ IRI-Com 
 ■ IRI-CT 
 ■ その他

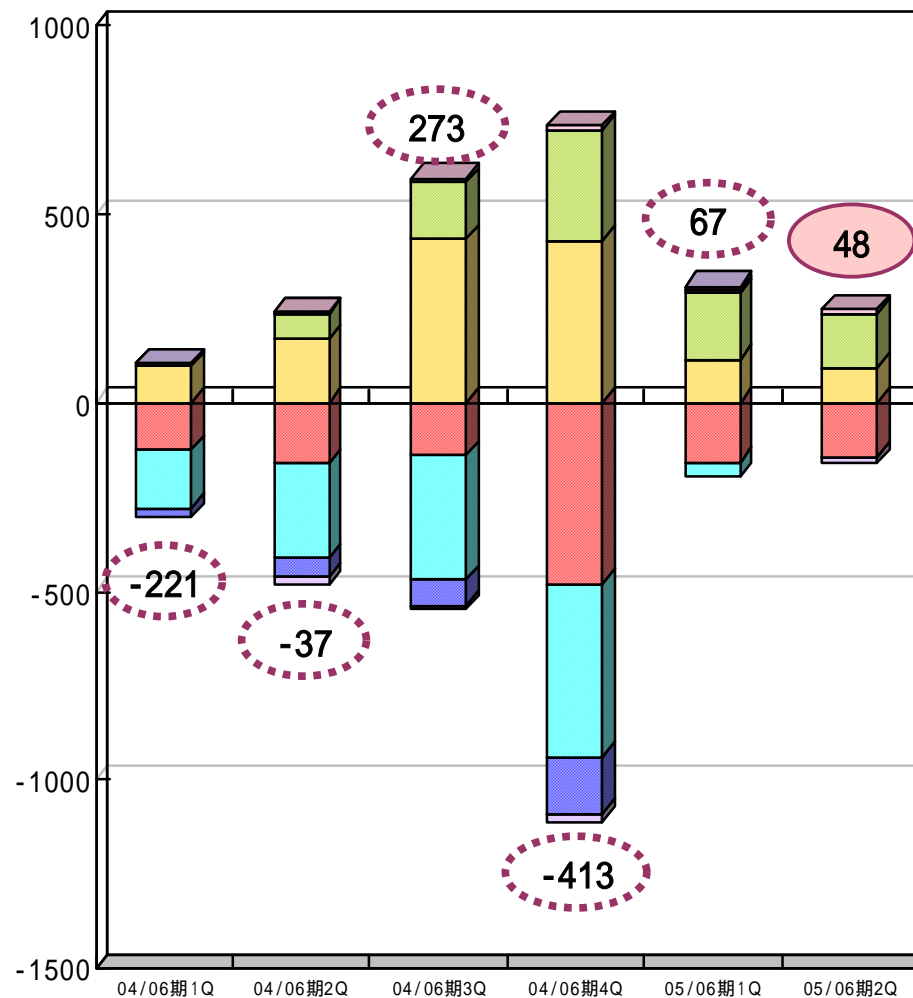
(単位:百万円)

< 会社別売上高推移 >

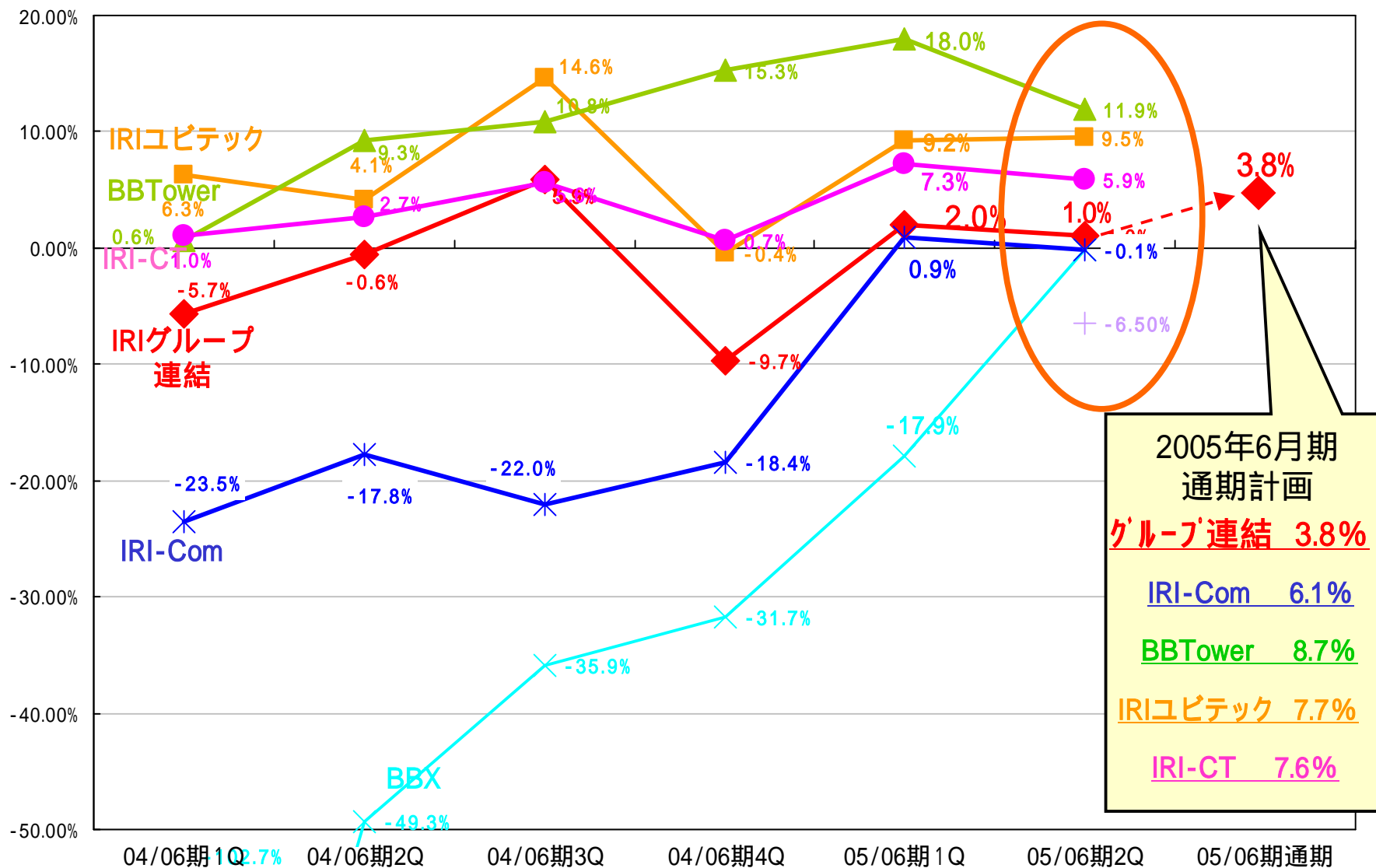


(単位:百万円)

< 会社別営業利益推移 >

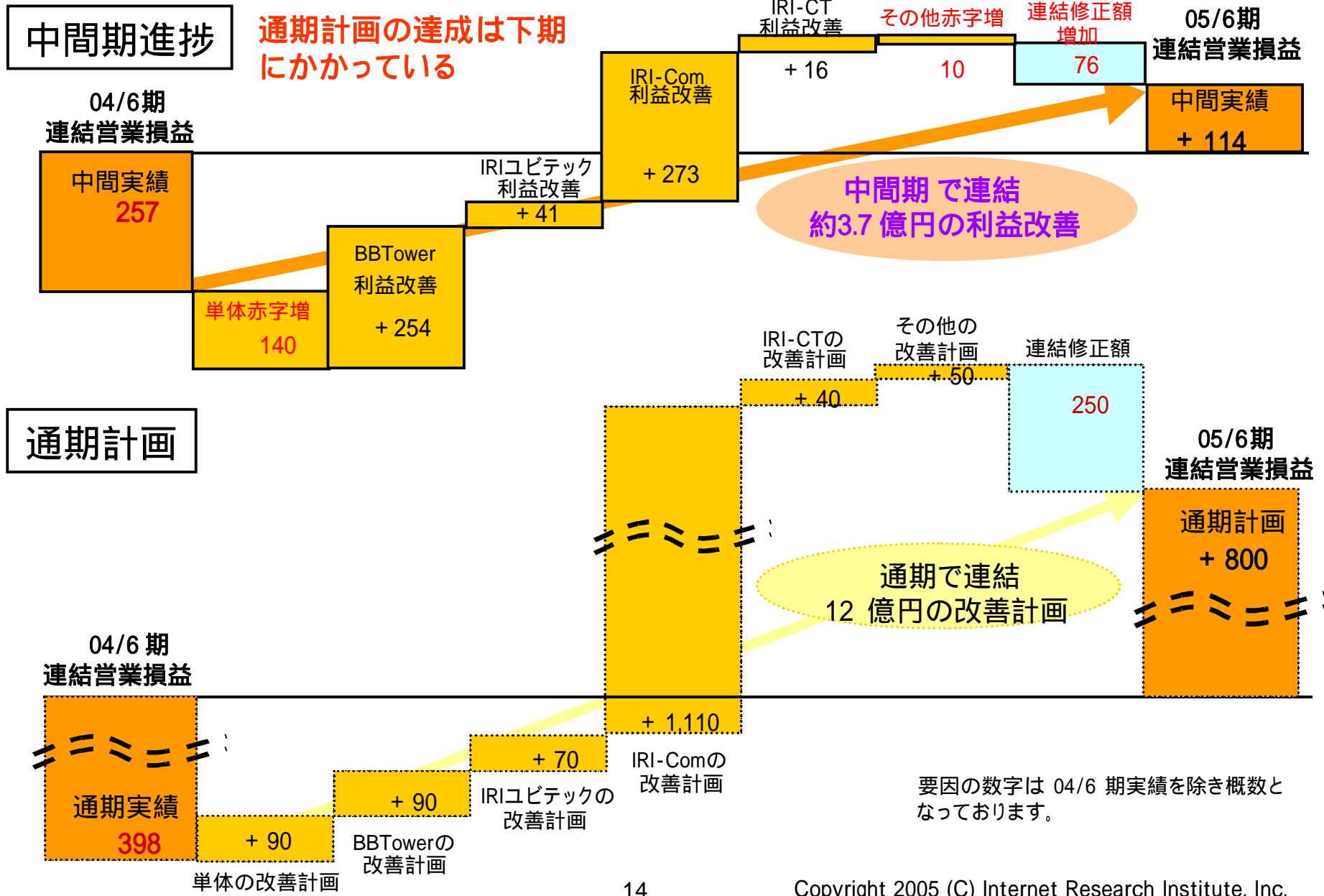


# 1-10. グループ会社別営業利益率の推移



2005年6月期  
通期計画  
**グループ連結 3.8%**  
 IRI-Com 6.1%  
 BBTower 8.7%  
 IRIユビテック 7.7%  
 IRI-CT 7.6%

# 1-11. 今期の利益改善計画と中間期進捗状況



## 株式交換によるファイバーテックの完全子会社化

- ・IRIとファイバーテックとの資本および業務提携による医療分野におけるIP化による積極的な技術革新
- ・株式交換期日:2004年10月1日
- ・交付する新株式数:普通株式3,124.20株

## IRIユビテックの株式を一部松下電工に譲渡

- ・IRIユビテックおよび松下電工の成長戦略にシナジーが期待されることにより、株式譲渡。
- ・譲渡先:松下電工(株)、譲渡日:2004年9月29日、譲渡金額:5,000万円

## IRIユビテックの株式を一部三井物産へ譲渡

- ・IRIユビテックと三井物産の成長戦略にシナジーが期待されることにより、株式譲渡。
- ・譲渡先:三井物産(株)、譲渡日:2004年11月26日、譲渡金額:5000万円

## IRIがジュリアーニ/セイジと資本業務提携し、IPシナジーファイナンス事業を共同展開

- ・“IPシナジーファイナンス™”事業を展開し、パートナー企業群への経営刷新と企業価値向上を支援。
- ・IPシナジーファイナンス事業を展開するにあたりファンドマネジメント会社IRI Finance And Technology Asiaを共同設立。(設立日2004年11月15日)

## 円貨建転換社債型新株予約権付社債の発行

- ・Stanfield Financial Inc.(ジュリアーニ・パートナーズ/セイジ・キャピタルグロースのグループ会社)への割当
- ・払込期日および発行日:2004年12月1日 ・社債の総額:45億円 ・転換価格255,460円

## 2. グループ各社の概況



## 2-1.連結グループ構成

### グループ企業価値の最大化

	(連結)	(単体)
	売上高: 210億	7.8億
	営業利益: 8億	-3.9億
	従業員: 328人	18人

- 本社機能
- <財務機能>
  - <グループ・ガバナンス機能>
  - <横断的な成長戦略の策定機能>
  - <M&Aを積極活用した新事業の創出>

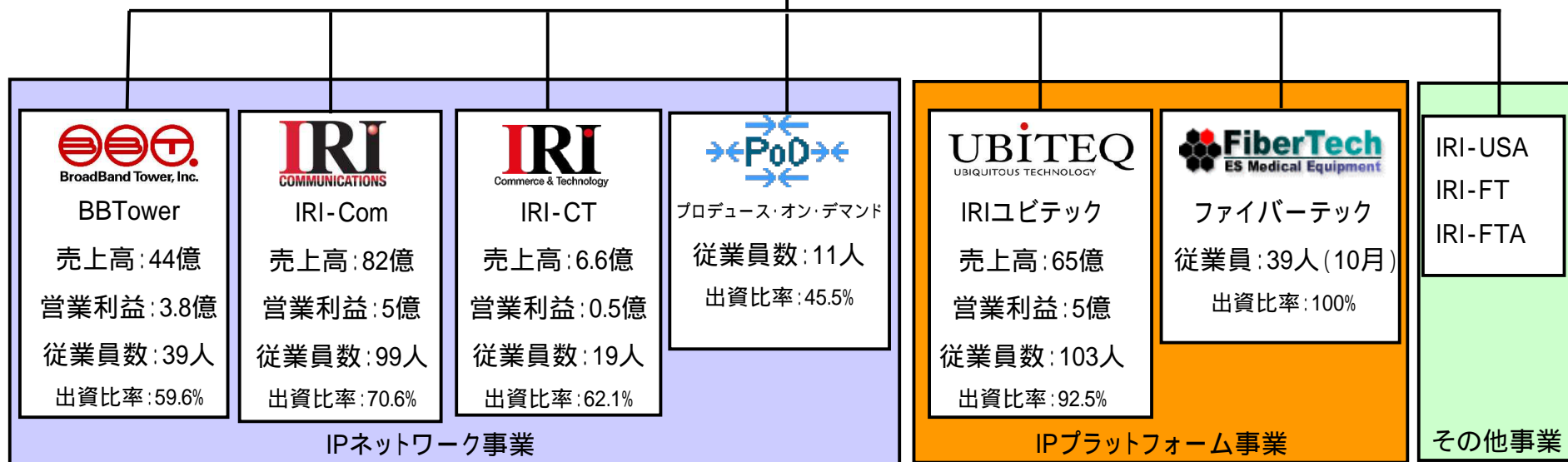
グループ会社の役割を明確化した『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の増大を目指す

業績: 05/6月期計画

出資比率: 12月末現在

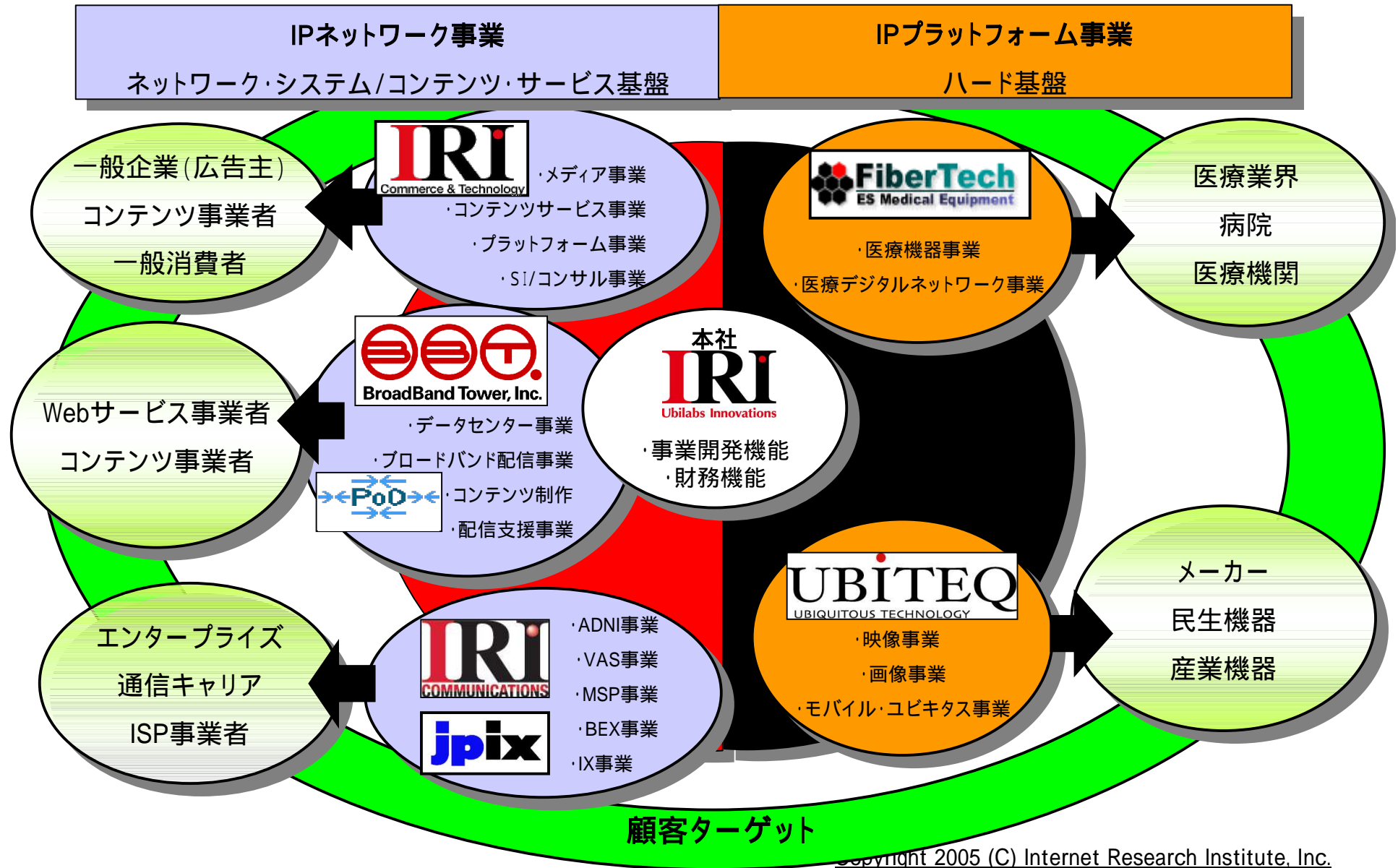
従業員: 12月末時点(役員除く)

#### 連結子会社群



各グループ子会社は自己資金調達力を強化  
事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

## 2-2.事業展開:IP技術を用いたサービス・インフラ基盤の提供



## 2-3. グループ概要      ブロードバンドタワー



### ブロードバンド時代の情報発信拠点 (iDC)



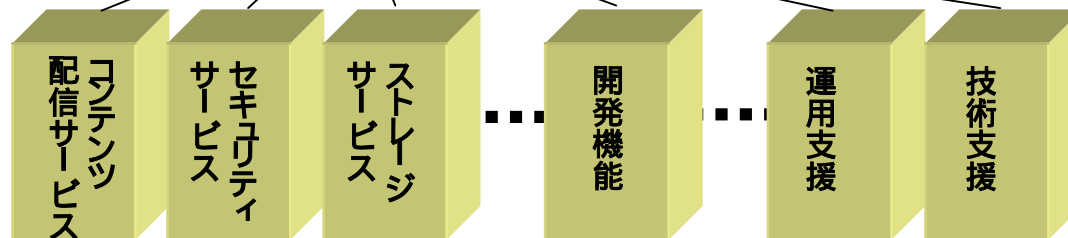
顧客: コンテンツ事業者



設立 : 2000年2月9日  
 資本金 : 11億6195万円  
 代表取締役会長 : 藤原 洋  
 代表取締役社長 : 大和田 廣樹  
 出資企業 : 株式会社インターネット総合研究所  
                  ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド 2号  
                  ソフトバンクBB株式会社 (SBBB)  
                  ソフトバンク・インターネットファンド  
                  住友商事株式会社

#### ブロードバンドコンテンツの発信拠点

**基本型iDC事業 (国内最大規模)**  
 1000ラック以上の運用  
 10Gbps以上のトラフィック



IRI技術の集約拠点として、また、多くのパートナー企業との連携により、ブロードバンドバリューチェーンのあらゆる局面でサービスを提供。

#### 付加価値型iDC事業

##### ネットシネマ事業

2003/10 ~ 「ラヴスト!」4本立て  
 2004/4 NHKエンタープライズ21の協力によりドキュメンタリー作品の制作に進出



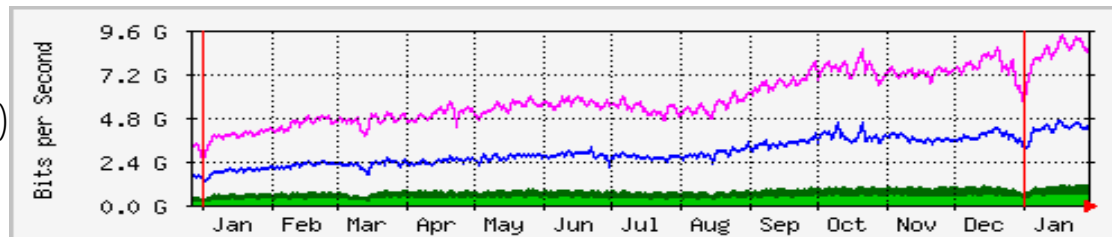
## 2-4. トピック ブロードバンドタワー

2005年6月期中間実績 売上:2,189百万円 営業利益:322百万円  
2005年6月期予想 売上:4,400百万円 営業利益:383百万円



### 世界最大規模のトラフィック発信

トラフィック量:約9 Gbps  
(2005/1現在)



### 新データセンター「天王洲サイト」を開設

2004/11 ~ 「天王洲サイト」開設 2004/10 ~ 70ラック規模 2005/4 約400ラック規模へ

大手町サイトが販売好調であること、ブロードバンドの更なる普及とともに需要増大が、今後も予想されることから「天王洲サイト」を開設。

### ブロードバンド配信事業の展開

#### ・ブロードバンドミュージックコミュニケーションズ設立

ブロードバンドに特化した音楽のプロモーション及び音楽流通網の構築も含めた音楽配信合併会社を設立。

#### ・ネットシネマ事業

2003/10 ~ ネットシネマ事業へ参入 2005/1現在 3本配信中

2005/6期 30本を企画制作予定



### ユビキタスプラットフォームの構築

#### ユビキタス研究所

ユビキタスネットワーク関連の研究開発

- ・ IPv6センサーネットワーク
- ・ 無線LAN/無線ICタグシステム
- ・ 次世代映像配信システム
- ・ 次世代デジタルテレビ
- ・ 次世代モバイル通信技術

設立	: 1977年11月
資本金	: 6億400万円
取締役会長	: 藤原 洋
代表取締役社長	: 荻野 司
出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所(96.0%) 松下電工株式会社、三井物産株式会社

#### ハードウェア、モバイル通信システム関連、ソフトウェアの 開発・製造(ファブレス)・販売

[ハードウェア] 液晶プロジェクタ用PCインターフェースボード、  
デジタル複写機用画像処理ボード等



[モバイル通信システム関連] 携帯電話新機種評価業務、カルテ検索システム等

[ソフトウェア] 動画・静止画検索システム、自動書籍朗読システム、  
高速全文検索システム等

#### 主要取引先は、大手製造業や通信業

- ・ シャープ株式会社
- ・ オムロン株式会社
- ・ ボーダフォングループ 等
- ・ 富士写真光機株式会社
- ・ オリンパス光学工業株式会社



## 2-6. トピック IRIユビテック

2005年6月期中間実績	売上: 2,234百万円	営業利益: 210百万円
2005年6月期予想	売上: 6,500百万円	営業利益: 500百万円

**UBITEQ**  
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

### ISO9001/14001の認証を統合マネジメントシステムにより取得！

私たちはこの統合マネジメントシステムを有効活用し、お客様の満足 (ISO9001) 及び地球環境の向上 (ISO14001) を常に考え、追求する姿勢を緩めません。

2003年12月 社内におけるISO推進体制の整備

2004年9月 初回審査合格

2004年10月 認証取得



整備された社内マニュアル

### BX (Building eXchange) 本格始動

共同開発 **National**



センサで検出

照明監視制御システム (今後空調機器などへの対応も)

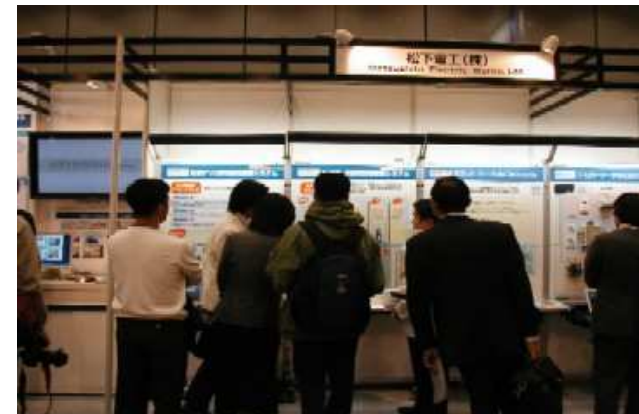
ネットワーク (IPv6技術による) 接続

コントロール制御

ビル群の一括管理可能！



2004年11月16日～18日開催のGlobal IP Business Exchange 2004 (於: 東京有楽町フォーラム) にも出展、関心を集めました。





## 業界初のGNSP (General Network Service Provider)

設立	: 2000年11月30日	出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所
資本金	: 6億9,300万円		ドリームテクノロジー株式会社、日本電気株式会社
代表取締役会長	: 藤原 洋		日本電話施設株式会社
代表取締役社長	: 持塚 朗		キヤノンネットワークコミュニケーションズ株式会社
			日本コムシス株式会社、住友商事株式会社
			東京電力株式会社、株式会社NTTデータ

BEXサービスは、CATV、ADSL、FTTHなどのブロードバンドアクセス事業者とCSP、ASP、iDCなどコンテンツ配信事業者のネットワークを大容量帯域で直結するレイヤ3 IX(インターネットエクスチェンジ)サービスです。都内のiDC、キャリアビルを結ぶ光ファイバリングを構築、複数の拠点をIXとして機能させる分散型IXを構築しています。1Gbps = 170万円/月に特長

Virtual Access Serviceとは、ISPが自前のネットワークを構築することなく全国規模のダイヤルアップインフラを構築できるサービスです。ISP様は最も経費が高むアクセスサーバー(回線を含む)の保守・運用・維持・拡大から開放されます。ISP負担ゼロ+ペイバックに特長



**Advanced NI**  
最先端のIPテクノロジーノウハウを活かした高速かつ高信頼性のネットワークを実現するソリューション

**Management**  
24時間365日有人による監視運用サービス

Advanced NI Service → 通信事業者、一般企業

IT技術革新が進むネットワークの分野において、最先端の技術と製品によるソリューションを御提供します。先進技術の積極活用を行ない、時代を先駆ける最先端かつ最高のテクノロジーとソリューションによりコストリダクションを実現するご提案を行います。セキュリティに特長

Management Service → 通信事業者、一般企業

高度なテクノロジーとそのノウハウ、そして洗練されたマネジメント力を活かし、お客様のネットワークシステム及びサーバシステムの監視・運用アウトソーシングサービスを24時間365日ご提供いたします。ルータ+サーバの24時間監視・運用に特長

## 2-8. トピック IRIコミュニケーションズ

2005年6月期中間実績 売上: 2,945百万円

営業利益: 28百万円

2005年6月期予想 売上: 8,200百万円

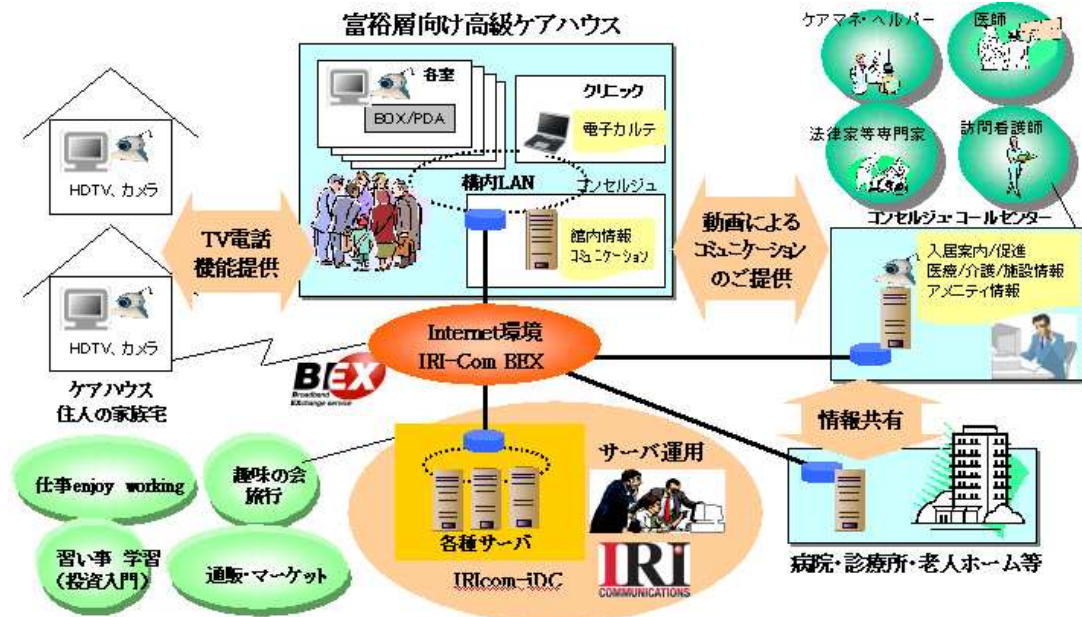
営業利益: 500百万円

### 高級ケアハウスのIT化推進について～メディモ社への資本提携に伴う本事業への参入

シルバー産業における今後の市場規模は、今後30年間で60歳以上の人口が全人口の20%を超え、団塊の世代の高齢化が一気に加速してまいります。医療市場規模が30兆円、関連施設においては、高齢者施設が1,000以上、老人保健施設は4,000以上にまで拡大されると言われております。

このような市場環境のもと、IRI-Comとメディモは、今後増加していく高齢者向け施設の拡充に伴い、従来の発想にないIT導入によるケアハウスと医療機関、クリニックとのネットワーク化を実現してまいります。入居者の健康情報の管理やメディカルケアサービス(メディカルコンシェルジュ)、さまざまな旅行の予約やショッピングといった生活情報(ライフコンシェルジュ)、また家族とのTV電話会議システムなど、コミュニケーションツールの構築、提供を行ってまいります。

(本件は、2005年1月19日『日本経済新聞朝刊』に掲載されました。)



### Advanced NI Products 販路拡大のための販売パートナーの強化

弊社が独自マーケティングにてラインアップを行なっている最先端プロダクト10製品に関して、販売パートナー政策を展開。多くの顧客リソースを所有するパートナー企業と協業を行ないプロダクトのみならずソリューション販売を推進。2005年1月26日段階で15社のシステムインテグレータに対して弊社プロダクト拡販プログラムの紹介を実施済み。協業体制の強化により今後の販路拡大、売上拡大を推進する。





## 日本最大のブロードバンド情報専門サイトの運営

### Commerce & Technology

- メディア事業 - 『RBB TODAY』の運営
- 『オートアスキー』の運営
- コンテンツサービス事業
- プラットフォーム事業
- システム開発及びITコンサルテーション

設立 : 2000年4月28日  
 資本金 : 2億1,000万円  
 取締役会長 : 藤原 洋  
 代表取締役社長 : 宮川 洋  
 出資企業 : 株式会社インターネット総合研究所  
 住友商事株式会社



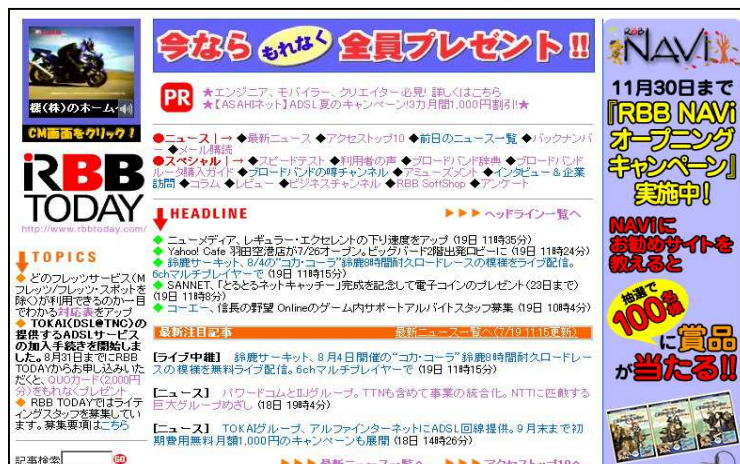
ブロードバンド情報の最新ニュース  
 とISP案内サイト『RBB TODAY』  
 (月間1400万PV)

<http://www.rbbtoday.com/>



クルマ最速・総合ニュースサイト  
 『レスポンス』(月間 2000万PV)

<http://response.jp/>



## 2-10. トピック IRIコマースアンドテクノロジー

2005年6月期中間実績 売上：304百万円 営業利益：20百万円  
 2005年6月期予想 売上：660百万円 営業利益：50百万円

### RBBTODAY、Responseのユーザー数増加、内容の充実



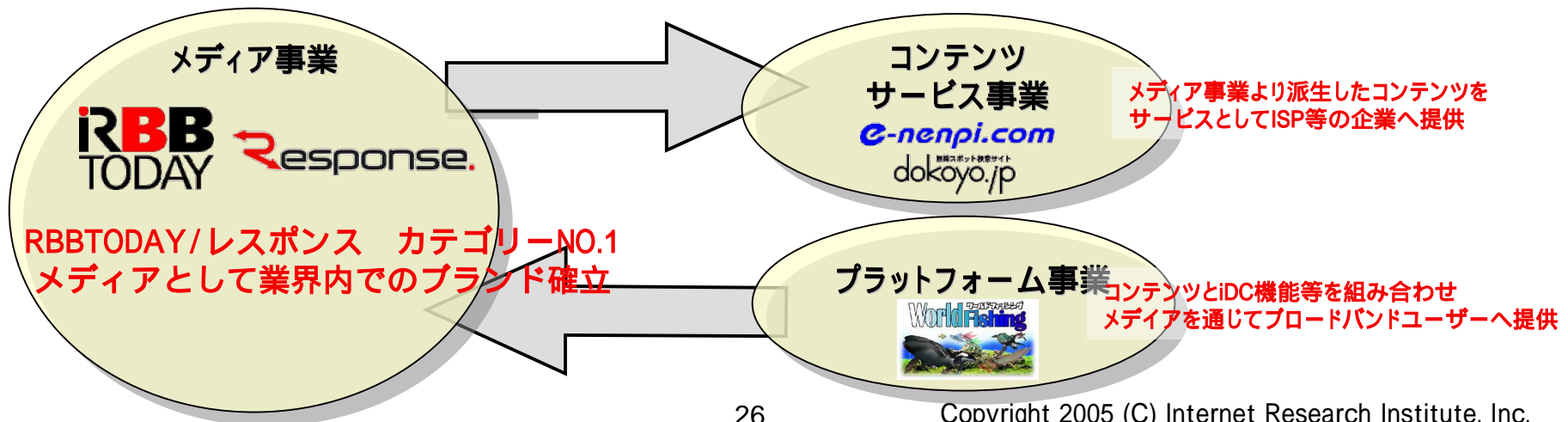
月間1400万PV/ユニークユーザー110万人  
 光サービスに特化したサイト・イン・サイト  
 「光 hikari」を開始。光サービスだけの情報を  
 提供。

オンラインゲームに特化したサイト「Slash  
 Games」、オンラインゲームユーザーの総合  
 コミュニティサイト「PaO Slash Games」スタート。  
 Yahoo!Japanにブロードバンドコンテンツと機器  
 情報の提供を開始。



月間2,000万PV/ユニークユーザー170万人  
 車内ケータイ利用アンケートを実施・分析。  
 マスコミ等も注目するデータを提供。

### メディア事業が成長を牽引、他事業が順調に拡大





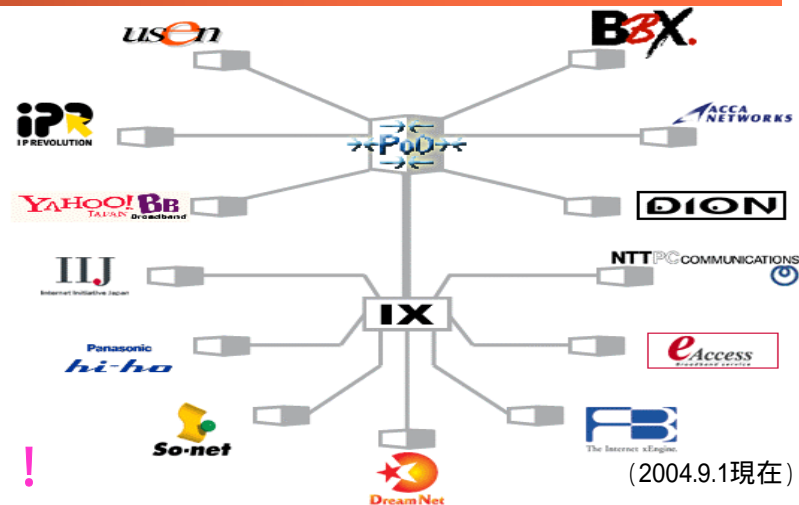
価格競争力のあるコンテンツ配信サービス事業

設立 : 2000年11月2日  
 資本金 : 1億8,080万円  
 代表取締役 : 菊地 頼  
 出資企業 : 株式会社インターネット総合研究所、株式会社IMAGICA等

個人市場の開拓: 動画配信ビジネス・プラットフォーム「Digital Cascade」

大手ネットワーク事業者とのアライアンス

Digital Cascadeとは・・・  
 大手ネットワーク事業者とのアライアンスによるブロードバンド時代を睨んだ高品質ストリーミング配信プラットフォーム。約15万人規模の同時配信を可能とし、国内最大規模と評判のパフォーマンスを有する。



(2004.9.1現在)

現在、月間約2,100万Streamingを配信中！

法人市場の開拓: 伊藤忠グループとの業務提携

伊藤忠エレクトロニクス(株)から「ブロードバンドゲートウェイ」事業( )を譲受。ブロードバンドコンテンツ配信事業を共同で推進・展開。

( )ブロードバンドネットワークを活用したビジネスモデル提案から最適な配信プラットフォーム環境を提供するワンストップブロードバンドサービス。

法人顧客の獲得を狙い伊藤忠商事からPoDへの資本参加を含め、広範な資本業務提携を強化していく予定。

## 新規事業開拓： 位置情報提供サービス(名称「ランドセルフォン」)

ランドセルフォンとは・・・

誘拐・ら致事件などの犯罪が多発化する昨今の傾向を背景に、公立小学校などでは、防犯ベルを児童に所持させるケースが増加している。こうしたセキュリティに対する保護者・学校などのニーズに応え、児童のランドセルに装着した専用PHS端末からの情報により、リアルタイムに加入者(父兄・保護者等)に対し、児童の位置情報を提供する

特徴とメリット

携帯電話やPHSを児童が学校などへ携帯する場合は「紛失」や「遊びへの利用」などが問題になりがちでした。

しかし、「ランドセル装着型」であることや、電話としては、事前に登録された2局番にしか発信できない(つまり保護者の方にしか電話できない)ようになり、こうした問題へ配慮した設計により、安心して児童に持たせることができます

PoDではランドセルフォン向け位置情報提供サービスを4月開始に向け開発中。

今後、より位置測位精度が向上した端末向け位置情報提供システムを開発予定。



# FiberTech

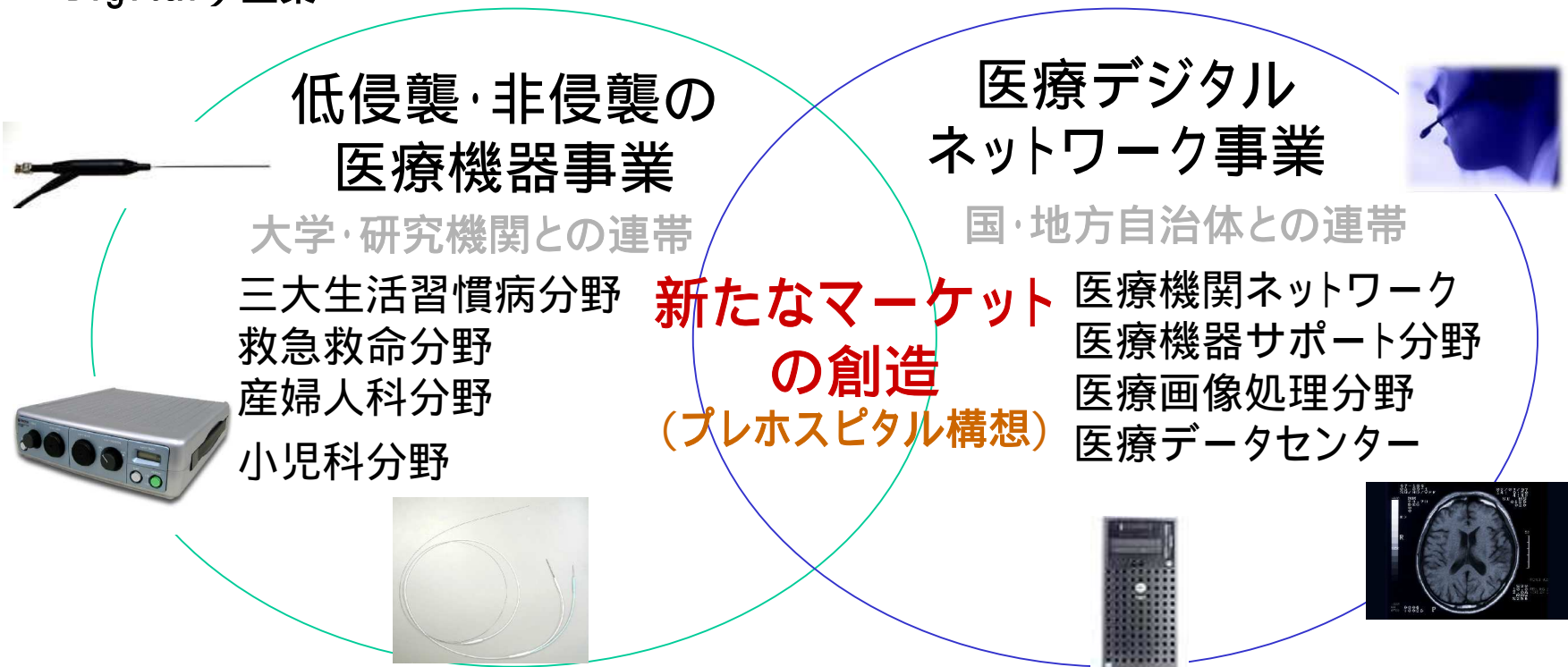
## Medical Devices

医療分野のIT・IP化による新たなマーケットを創造

極細系の光ファイバーを使用した世界でもっとも細い内視鏡を製造。

2つの事業を柱としたM&D (Medical & Digital) 企業

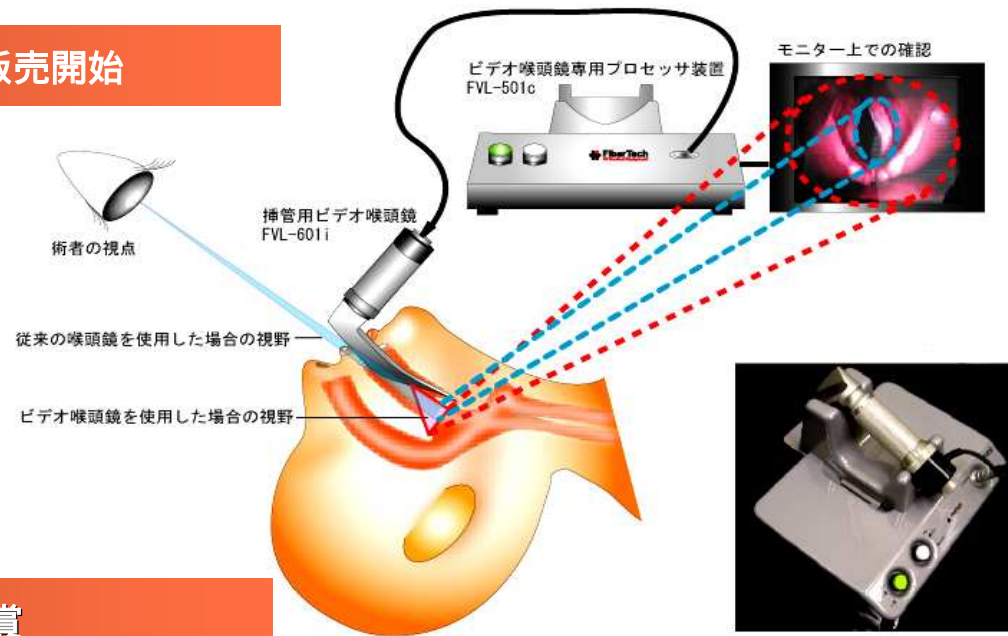
設立	: 1998年10月
資本金	: 2億3,662万円
代表取締役社長	: 三池神也
出資企業	: 株式会社インターネット総合研究所



## 2-14. トピック ファイバーテック

### 製品トピック - 挿管用ビデオ喉頭鏡 販売開始

気管内挿管の危険性を排除できる製品  
臨床目的のみならず、教育手段としての販路開拓  
会社の売上に大きく貢献



### 2004 東京都ベンチャー技術大賞 大賞受賞

技術力のある会社としてのプレゼンスを広く知らしめた



## 3 . IRIグループ全体戦略



**【Everything on IP! & IP on Everything !】**

20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は  
IP (Internet Protocol) 技術である

あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく！



## 3-2. IRIの歩みと方向性

**「インターネットをあらゆる産業へ」を理念に通信・コンテンツ・ネット機器ベンダーと共に8年**

**第4フェーズ**：【国際市場における連携・競争フェーズ】 国際戦略企業への発展を目指して 2005年～

【ジュリアーニ・パートナーズ/セイジ・キャピタル・グローバルと資本業務提携】 **「国際連携に基づく新事業の創造」**  
 ・Giuliani/Sageへの転換社債型新株予約権付社債発行:45億円 本体投資機能の強化  
 ・ファンドマネージメント会社の共同設立:100億円 ファンド投資機能の構築

**第3フェーズ**：「株式市場の競争フェーズ」 株価が重要な意味・黒字転換  
 【リーマンブラザーズ・アジアリミテッドから32億円の成長資金調達】

- ・IRI-Com、IRIユビテック、BBTowerグループコア3社の資本増強
- ・ファイバーテックを100%子会社化し先端医療分野に進出

**第2フェーズ**「顧客獲得の競争フェーズ」 上場後の事業規模3年で約10倍  
 【デロイト・トゥシュ・トーマツ・テクノロジーFast50で4位にランクイン】

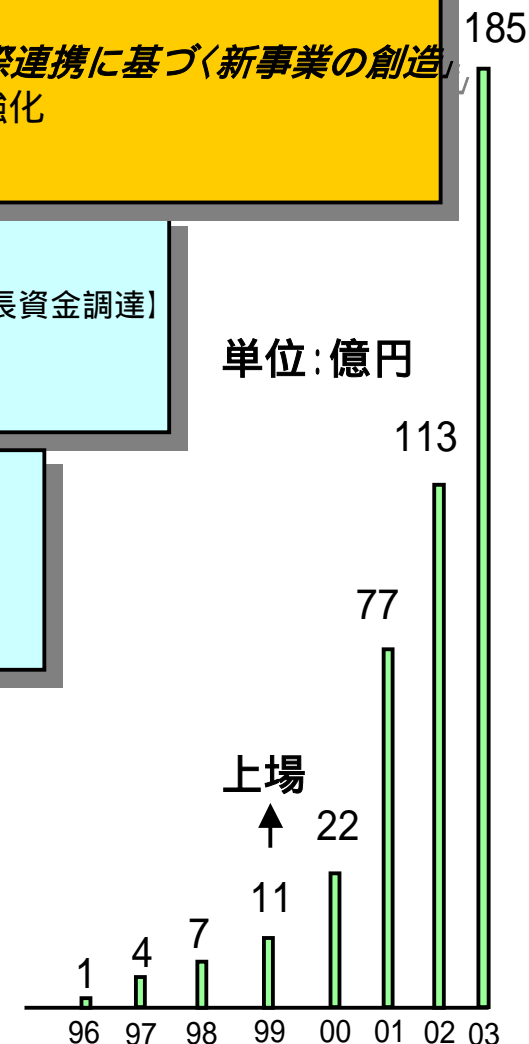
- ・コンテンツ事業者向け「iDC(インターネットデータセンター)事業会社」設立 BBTower
- ・電子機器メーカー向け「組込み部品事業会社」(タウ技研)買収 IRIユビテック
- ・通信事業者/企業向け「ネットワークアウトソーシング事業会社」設立 IRI-Com

**第1フェーズ**「資金調達の競争フェーズ」1999年12月22日東証マザーズ第1号として上場  
 【約109億円の資金調達】

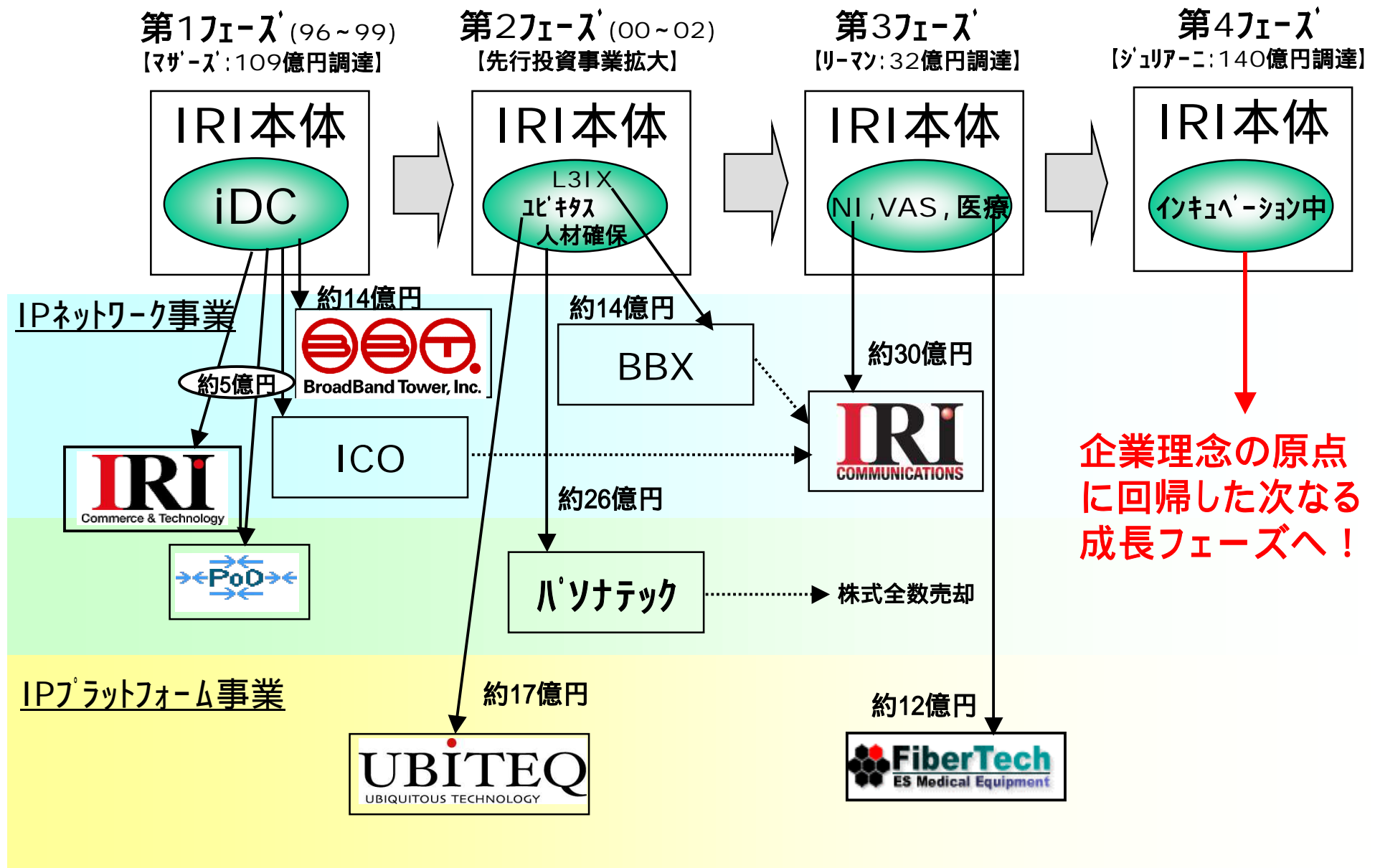
- ・JPIX(日本初の商用IX:プロバイダー間交換)設立・運用
- ・NTTドコモと資本業務提携

**創業**：「インターネット・テクノロジー系新興企業」として創業 1996年12月

- ・通信キャリア向け「インターネット接続事業の技術コンサルティング」



# 3-3.成長のための本体による事業創造メカニズム



## 3-4.第4フェーズでの新規事業:IPシナジーファイナンス

### 1. IPシナジーファイナンス(2つのアプローチ)

IRIグループではIRI本体の役割として、M&Aを最大限活用することにより、グループ企業の事業拡大を図ってきた。海外投資家であるジュリアーニ・セイジ（ジュリアーニ・パートナーズ社とセイジ・キャピタル・グローバル社の提携企業）より45億円資金を調達。IRIグループ本体の主要機能である投資活動を強化

ジュリアーニ・セイジと共同ファンド事業を立ち上げ、グループ子会社であるIRIファイナンス&テクノロジーで投資ファンドを運用。IRIグループにおける投資サービス事業を新たな中核事業として育成する。

【ジュリアーニ・パートナーズについて】

ジュリアーニ・パートナーズは、前ニューヨーク市長であるルドルフ・W・ジュリアーニ氏と彼の8年間の任期中にニューヨーク市で共に勤務していた多数の幹部によって経営されるマネジメント・コンサルティング会社です。

【セイジ・キャピタルグローバルについて】

セイジ・キャピタル・グローバルは戦略的なプライベート・エクイティ・ファンドを管理する大手投資会社。過去数年間で200件以上の投資を手がけ、現時点での投資残高は25億米ドルを超える。

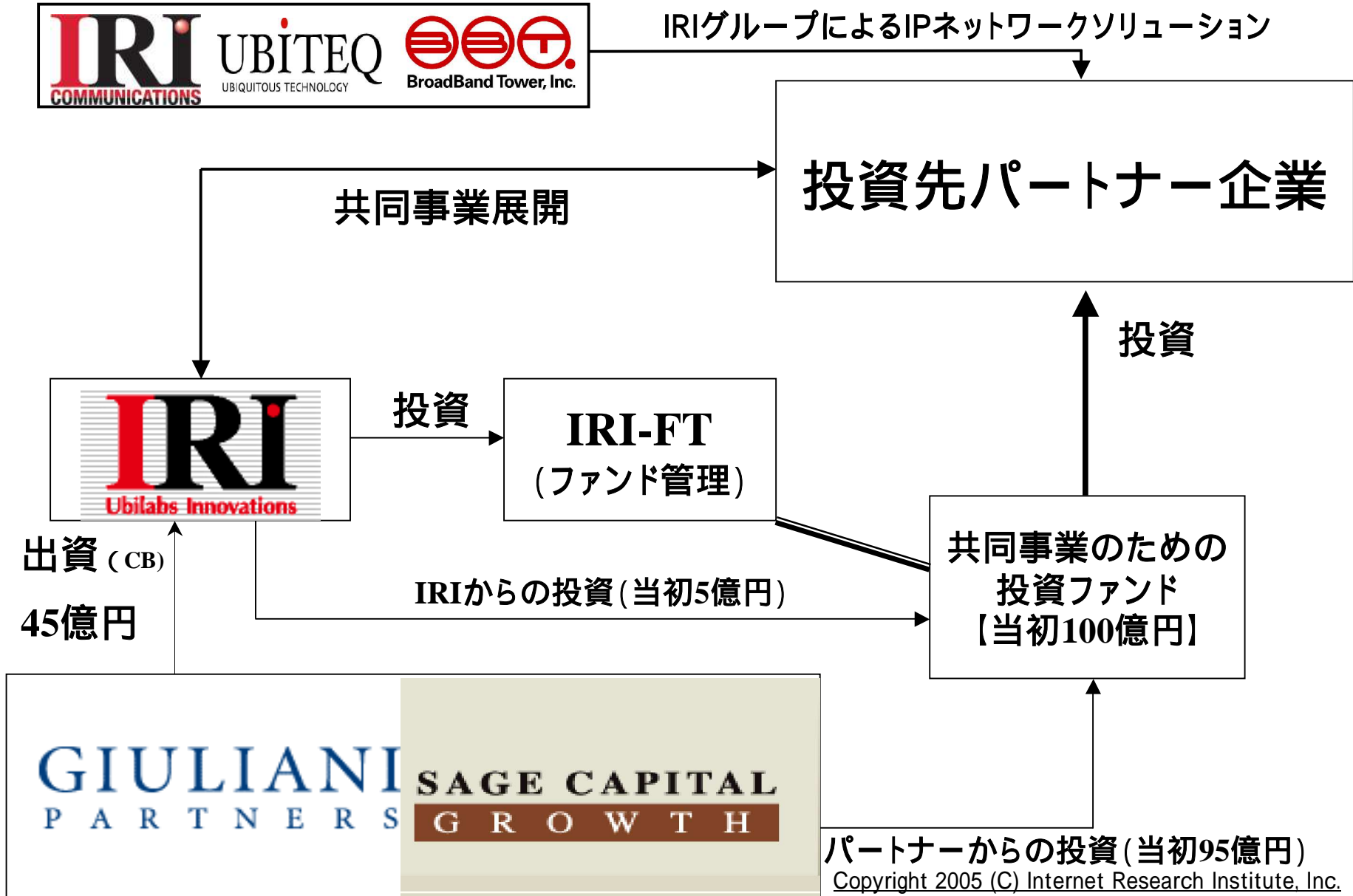
### 2. 投資の視点

- ・IT産業のグローバル化を踏まえて、投資の視点を日本国内に限定することなく投資対象を調査、選定し、必要な経営資源を、各国、各地域の競争優位性に基づいて、統合することで、投資対象ビジネスの企業価値の極大化を図る。
- ・日本国内外のIT業界動向をリアルタイムで収集し、魅力的な投資対象の発掘、投資、育成を行う。

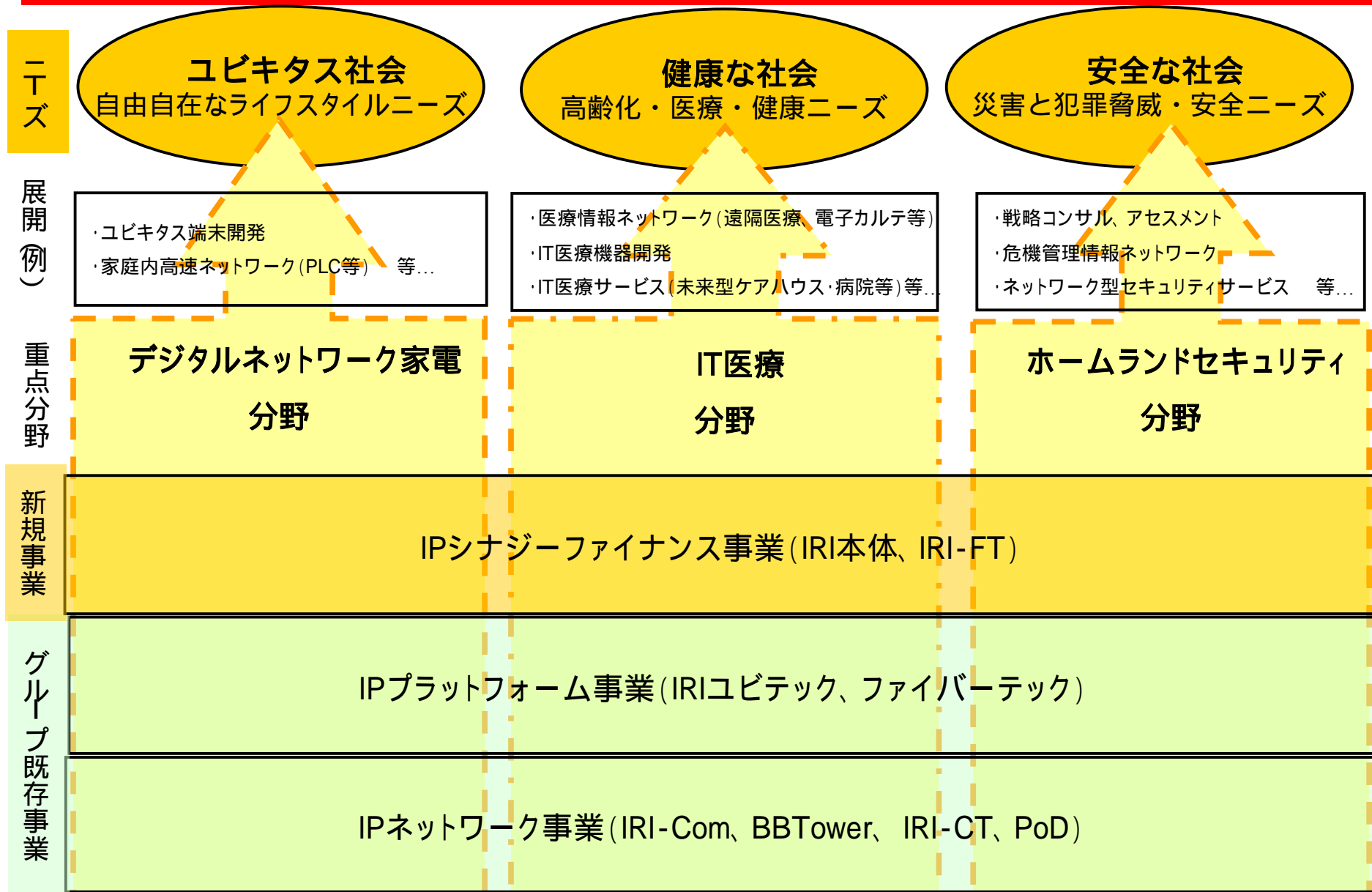
### 3. ファイナンス事業におけるIRIグループの強み

従来からのコーポレートファイナンス実務経験ノウハウ  
IP技術を活用した成長分野に対するマーケティング力  
グローバル展開での海外パートナーの強力なバックアップ

### 3-5. ジュリアーニパートナーズとの資本業務提携スキーム



# 3-6.重点投資分野と横断的なグループシナジーの提供

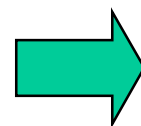


### 3-7.重点分野での既存グループ展開例

最先端救急医療技術に挑戦するファイバーテック(株)がビデオ喉頭鏡を開発



救急医療に  
威力を発揮する  
ビデオ喉頭鏡



救急救命士による心肺停止  
患者向け気管内挿管

(株)IRI/IRIユビテックによるIPv6センサー・ネットワーキング・コンソーシアムへの取り組み



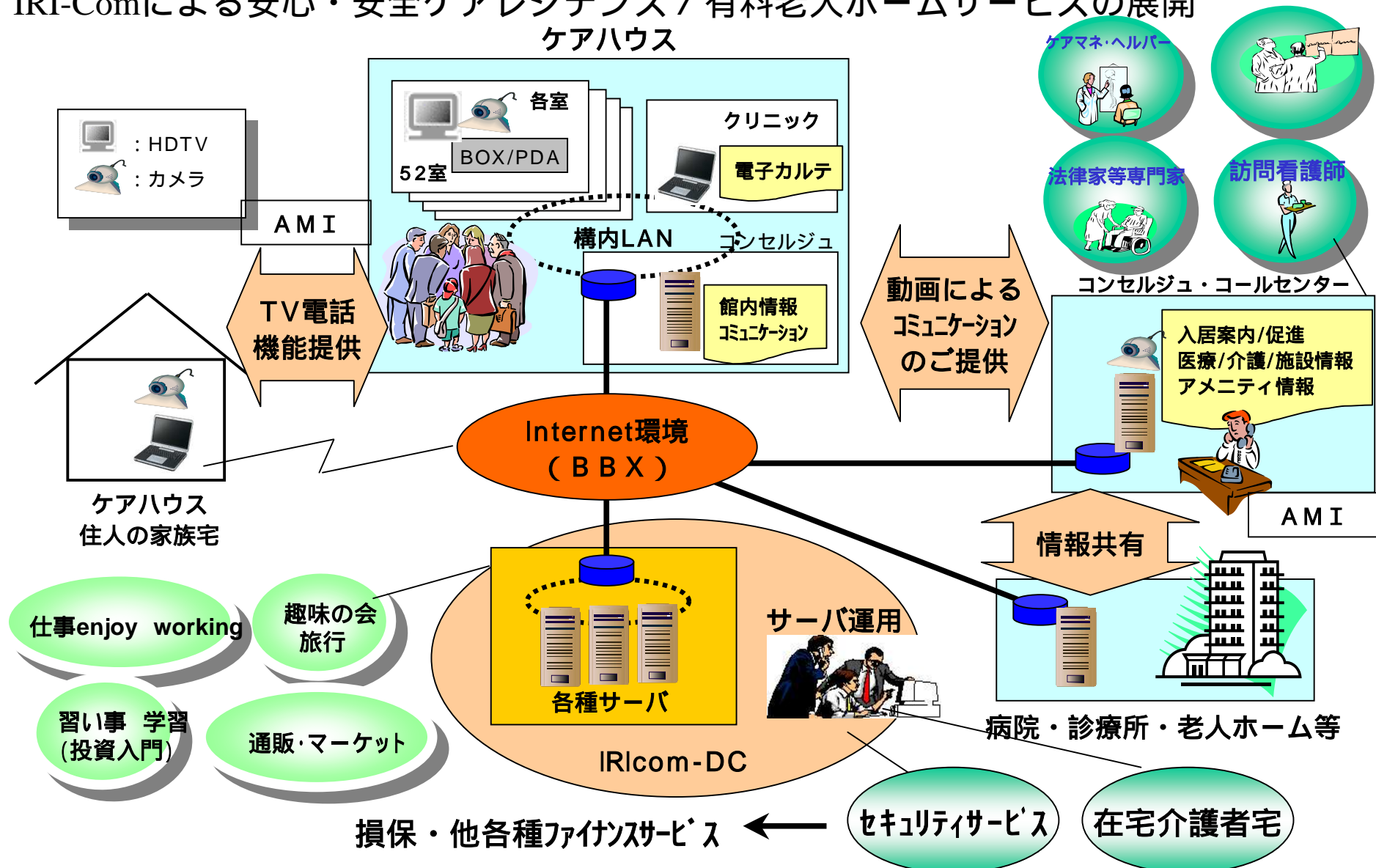
IPv6及びセンサネットワークの技術を活用し、ビルを中心としたHomeland Securityに関連するビル・オートメーション(BA)、ホームオートメーション(HA)、その他の分野における新しい市場を形成することを目的とし、平成2003年8月に設立。URL:<http://www.ipv6sensor.net/>

約40社にて月例会、WG、海外調査等により、新事業創造に向けて活動中。

運営委員発起社:IRI、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)日建設計、日本電気(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、松下電器産業(株)、松下電工(株)。

# 3-8.重点分野での既存グループ展開例

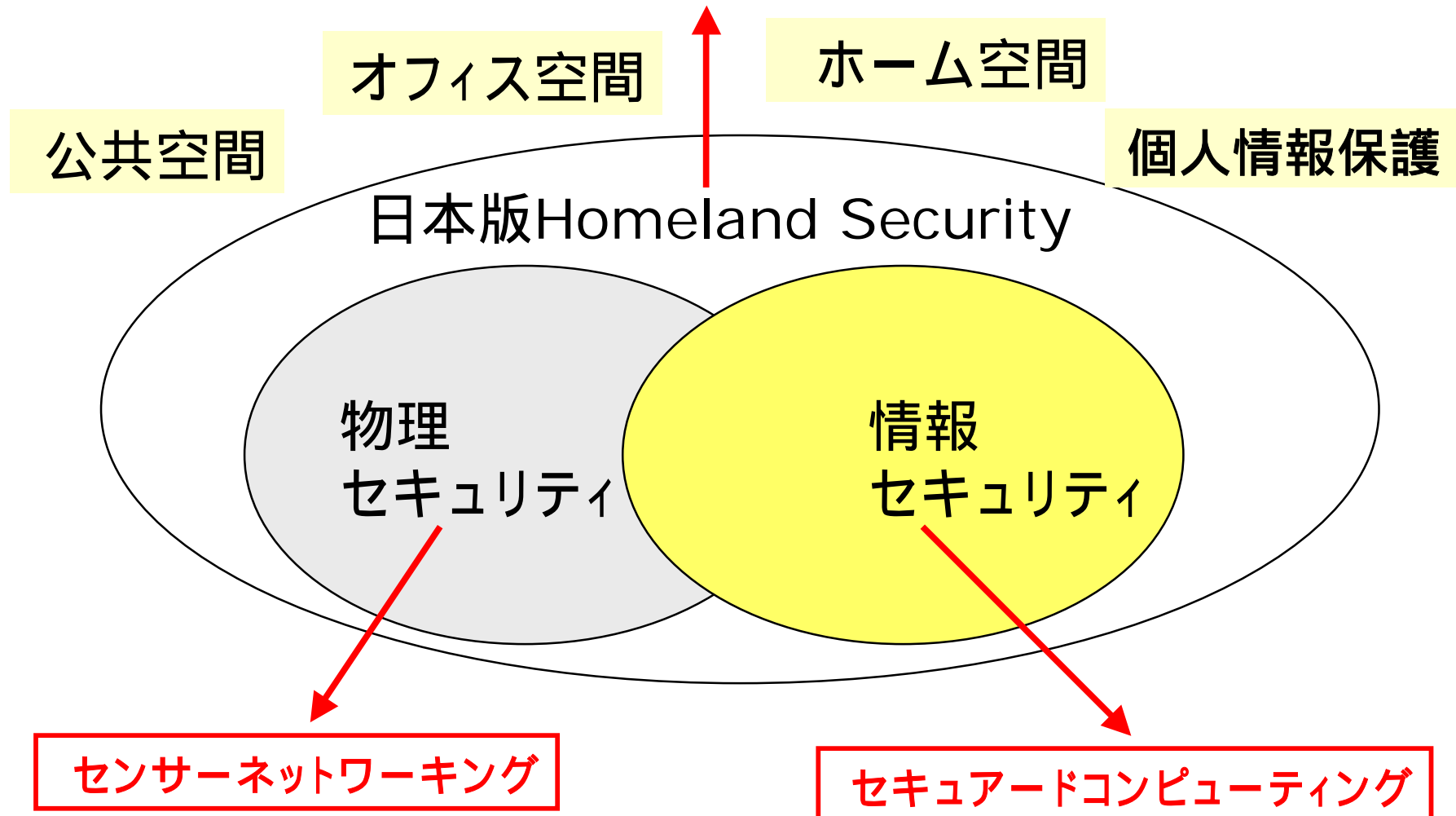
IRI-Comによる安心・安全ケアレジデンス / 有料老人ホームサービスの展開  
ケアハウス



### 3-9.重点分野でのグループ展開例

日本版Homeland Securityを目指す新ICT産業への提言

**21世紀型ICTによる「防災技術・防災産業」の確立：10兆円産業へ**






# 【IRIグループの企業理念】

20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は  
IP (Internet Protocol) 技術である

あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく！

“Everything on IP, and IP on Everything!”

同じままで  8年経過した

## Modifyする時期に来た

「IPがあると、面白い！ ためになる！ 便利になる！」

  
「IPはないと困る、IPで安全を守る！」

“Everything on IP, and Safety on Everything!”

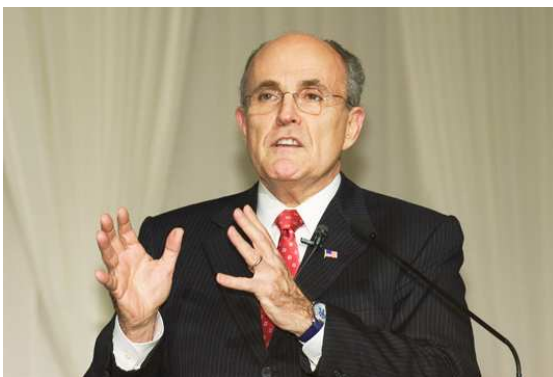
## 3-11.「Homeland SecurityとICT」シンポジウム(2005年2月2日)

去る2月2日、当社主催の「Homeland SecurityとICT」シンポジウムを明治記念館で開催いたしました。来場者は555名を数え、Homeland Securityビジネスへの関心度の高さがうかがえる、盛況なシンポジウムとなりました。



開会のご挨拶のあと、引き続き「Homeland Securityが与えるインパクト」について藤原所長が講演し、続いて「個人情報保護とセキュリティ、その指針は？」のテーマで東京大学教授安田浩氏が講演されました。

基調講演として9.11同時多発テロ発生時に自らが陣頭指揮を執り、災害の波及防止、再発防止に尽力された、前ニューヨーク市長ルドルフ・ジュリアーニ氏が、米国における最先端の“Homeland Security”分野の動向についてご講演され、講演終了後も参加者との活発な質疑応答がなされました。また、21世紀における防災社会システムのあり方とこれを実現する技術・



産業の動向について、日本における専門家の方々とのディスカッションが行われました。

またレセプションにおきましても、ジュリアーニ氏ご自身も参加され、各企業のトップと親交を深めるなど、大変和やかな雰囲気の中、大盛況のうちに幕を閉じました。

# 3-12. 「Homeland SecurityとICT」シンポジウム (2005年2月2日)

## 「Homeland SecurityとICT」シンポジウム

- 公共/オフィス/ホームにおけるセキュリティへのインパクト -  
~ 前N.Y.市長ルドルフ・ジュリアーニ氏を迎えて ~

### 開催概要

会期: 2005年2月2日 (水)

会場: 明治記念館

主催: 株式会社インターネット総合研究所

協賛: 日本電気株式会社、株式会社日立製作所、日本電信電話株式会社

後援: アメリカ合衆国大使館 商務部

### プログラム

13:30 ~ 13:40 ご挨拶

株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長 藤原 洋

13:40 ~ 14:30 講演「Homeland Securityが与える日本へのインパクト」

株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長 藤原 洋

14:30 ~ 15:20 講演「個人情報保護とセキュリティ、その指針は？」

東京大学 国際・産学共同研究センター センター長 安田 浩

15:30 ~ 16:20 基調講演「Homeland Securityの現状」

前ニューヨーク市長 ルドルフ・ジュリアーニ

16:30 ~ 18:00 パネルディスカッション

「公共/オフィス/ホームをつなぐIPネットワークにおけるセキュリティのためのICT利活用」

- 何を目的し、何を考えるべきか？ 次世代ICT利活用とそのビジネスチャンスを探る -

メンバー: 東京大学 国際・産学共同研究センター センター長 安田 浩

経済産業省 商務情報政策局 情報セキュリティ政策室長 頼宮 裕貴

株式会社日立製作所 情報・通信グループCSO 山口光雄

日本電気株式会社 執行役員 都筑 一雄

日本電信電話株式会社 第三部門 サイバーセキュリティプロジェクト

チーフプロデューサー 影井 良貴

株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長 藤原 洋

コーディネーター: 株式会社IRIユビテック 代表取締役社長 荻野 司



敬称略

18:00 ~ レセプション